

令和3年度 第1回伊勢崎市多文化共生キーパーソン会議

会議録概要

開催日時 令和3年4月22日(木) 午後6時30分～午後8時

開催場所 伊勢崎市役所東館5階第1会議室

参加者

- ・キーパーソン【7名】：相沢 正雄さん(ペルー)、朝倉 平さん(ベトナム)、竹原 ドラさん(ペルー)、田村 真里留さん(フィリピン)、本堂 晴生さん(日本)、山本 雄次さん(ベトナム)、若林ヤスイスエリさん(ブラジル)
- ・事務局(国際課)【5名】：国際課長、国際化係長、国際交流係長、事務局職員2名

1 開 会

2 あいさつ

3 自己紹介

4 意見交換

(1) 多文化共生の取組みについて

- ・総合防災マップは外国人向けに多言語化されており、とても助かっている。
- ・事故多発マップを取り寄せて多言語化をすれば、事前に交通事故を防ぐことができそうである。また、子供たちの通学路にある注意書き標識も多言語化すれば安心である。
- ・外国人住民と日本人住民がごみ捨てのことに学べる交流会があれば良いと思う。例えば、それぞれの地域で一緒にごみ拾いをするとか、ごみについてのクイズ大会を開催するとかの交流があれば良いのではないか。それをきっかけとして、外国人住民がゴミを捨てる日やごみの分別等を理解してもらうことが大事である。

- ・外国人住民は、翻訳されてあっても長い文章のお知らせは読まないと感じることがある。また、長いアンケートも回答したがる感じがしない。
- ・ホームページなどでは多言語で表示されているものがあるが、母国語以外の言語があると読まない人がいる。言語別で専用のページをつくった方が見てくれるのではないか。

・外国人住民は、長すぎる文章を最後まで読まないと感じることがある。伝えたいポイントだけを絞って、文章を短くしたほうが伝わりやすいと思う。

・市役所にある申請書には英語やスペイン語などに標記されていないものが多く、わからない人が多いと思う。ローマ字表記にするとか、英語・スペイン語などにしてけると大変助かるのではないかな。

・外国人住民には自立してもらいたいと思っている。自分でできることを市役所の相談員にやってもらうのではなく、できることはまず自分でしてもらいたい。ごみの出し方なども市から教えられるものであると思わず、自ら学んでいくことが大事である。

・近所に外国人家族が住んでおり、夜中に大人数で大きな音を出していることがあった。まわりの住民は眠れないとのことで、その家族にやさしい日本語で「静かにしてください。眠れません。やめてください。」と注意したところ、その家族は理解してくれていたが、びっくりしている様子であった。それは、その外国人住民にとって「当たり前」な行動なので、注意される理由がわからないということである。

・日本人住民と外国人住民が、お互いの「生活習慣の当たり前」を知らないことからトラブルに繋がってくることが多い。目に見えるトラブルであれば少なからず関りがあるが、お互いに言いたいことを我慢していると多文化共生にはならず、お互いが嫌な感情を持ち続けて生活していかなくてはならない。いろんな国ごとの「生活習慣の当たり前」を表したイラストを作成するとよいのではないかなと思う。

・お互いの国の文化の違いを広報などで少しずつ出していくと良いのではないかなと思う。

・市長と一緒に作成した新型コロナウイルス感染予防啓発動画はとても良かった。いろんな所で動画を共有したところ、多くの企業からの評判が良かった。ある企業では、前まで社員への感染防止の啓発の仕方がわからなかったが、今回の動画は会社の食堂等で使うことができ、簡単に呼びかけができるようになって良かったという声もあった。

・多文化共生に力を入れている他の自治体に、今回の市長との新型コロナ予防啓発動画を共有させてもらったところ、とても喜んでくれた。場所は違っていても抱えている行政の課題は一緒だと感じた。

・外国人住民は何かしらの仕事をしており、雇用主である企業は外国人社員を教育することができるため、企業が感染防止動画等を社員に見させることが大事。

・市のホームページにある自動翻訳機能で訳された翻訳文は、精度に欠けるため、理解できる人もいればあまり理解できていない人もいる。

・最近、市内で家を購入する外国人が増えてきたが、それは同時に地区との関わりを持つことである。日本語が十分ではない外国人が地区の役員に選ばれることがあり、地区のルール等を翻訳してしっかり教えてあげないと、外国人住民だけではなく周りの日本人住民

も困ってしまうと思う。

(2) コロナ禍における外国人住民への周知啓発の取組みについて

- ・多言語で作られたリーフレットでもしっかり見ない人がある。
- ・LINEなどのSNSを活用した情報発信は伝わるのが早いし、見てもらえることが多い。
- ・各キーパーソンから情報をもたらした人達がさらに情報拡散していける仕組みができれば良いが、キーパーソンにとってその仕組みづくりが難しく、課題であると感じている。
- ・外国人住民ももっと新型コロナウイルスに対する意識があれば、気をつけると思う。

・新型コロナウイルスに感染しないための情報はたくさん出ているけれど、感染した後の情報がない。感染したらどうなるのか、どうすればいいのかといった情報が欲しい。

・新型コロナウイルスの症状をしっかり理解させてあげた方が、外国人は日頃の感染防止に取り組むのではないかと思う。

・ベトナム語の文字は特殊であり、SNS等の自動翻訳を使用するとフォントがずれてしまって正しく情報が得られない場合がある。

・外国人住民は、新型コロナウイルスに感染した時の怖さはある程度理解していると思うが、もし感染した場合、その後どうすればいいのかわからない人が多いと思う。感染した時、頼るのが身内の知り合いしかいない状況が多いため、感染時のサポート体制が大事である。

・外国人住民に対する新型コロナウイルス感染防止の周知啓発で効果的なのが、新型コロナウイルスに感染した後の後遺症について理解させてあげることだと思う。これまで、市ではリーフレットや動画で後遺症について周知しているが、後遺症について繰り返し周知するのが良いと思う。

・日本人と外国人では考え方の違いがある。日本人は、周りの人が感染防止対策をやっているから自分もしなくてはならないという考えを持っているが、外国人は、周りの人がやっているからといって別に同じことをする必要はないという考えを持っている。外国人は、自分自身にどういう影響があるかということを考えるため、新型コロナウイルスに感染した時の症状を動画にして伝えるのが効果的ではないかと思う。

・とても効果的な周知啓発は、動画だと思う。動画であれば、携帯電話などでいつでもどこでも見ることができる。また、動画の再生回数も確認ができるため、視聴した人たちの人数も把握ができる。

・動画は、新型コロナウイルス以外の地震などの災害が発生したときにも効果的である。先日、地震が発生した時に、SNSでライブ動画を発信したところ、約1万人の人が視聴してくれた。動画には、他の発信ツールに比べて情報伝達にスピード感があるから良い。

・外国人住民にとってわかりやすいホームページは、言語別にした専用のページを作って、そこに各言語の情報を集約させることだと思う。また、新型コロナウイルス情報は、外国人住民にとって有益であるかが重要である。

・新型コロナウイルスに感染した時のコールセンターなどが設置してあるが、実際に感染した場合、最初に頼るのが身内の知り合いだと思う。

・新型コロナウイルスに感染したとき、人によって症状や後遺症が異なっている。SNSによる情報発信は、多くの人達に早く情報が行き渡るが、その反面、間違った情報を発信してしまうと、信用を失ってしまう危険性がある。

・リーフレットなど多言語対応しているものがあるが、全ての文章が多言語されてあっても、外国人は細かいところまで見てくれない。伝えたいポイントだけを絞って多言語にして伝えることが重要だと思う。キーパーソン自身も、細かすぎる情報が載ったものはシェアをしづらい。逆に、わかりやすく周りの外国人にとって有益な情報だと感じるものはシェアしたいと思うし、実際にシェアしたものが幅広く行き渡ったことを実感することがある。

5. 事務連絡

6. 閉 会